

2013年10月

## ようこそ！川崎幸クリニックへ

### 川崎幸クリニックの特色と現状



#### (1) 総合的な診療機能を持った診療所



院長 杉山孝博

1998年9月、川崎幸病院(203床)の外来部門を切り離して設立された外来専門の診療所です。内科、外科、整形外科をはじめ23の診療科をもつ総合的な診療機能があります。川崎幸病院や地域の医療機関と密接な連携をもって、高度で良質な医療を提供するように努めています。

マルチスライスCT、MRI、マンモグラフィー、各種内視鏡検査、超音波診断装置、骨密度測定器、生化学検査装置などの設備があつて、正確で速やかに診断・治療を行うことができます。

常勤換算で34名の医師をはじめ、合計173名のスタッフが、1日約1,100人の患者の診療にあたっています。

#### (2) 日本でも最も早い時期から電子カルテシステムを導入

川崎幸病院と川崎幸クリニックの分離により、それぞれの診療情報を共有化して速やかに把握できるようにするため、カルテの電子化が必要となりました。1998年の川崎幸クリニックの設立に合わせて、電子カルテシステムを導入しました。日本では非常に早い時期の導入でした。

現在では、川崎地区にある1つの病院、3つの診療所および訪問看護ステーションなどとの間で、レーザー通信や専用電話回線を使用して診療情報や画像情報を共有化しています。

電子カルテシステムは、検体検査システム、生理検査システム、画像診断システムなどと連動して、速やかで正確な指示を出すことができ、結果を得ることができます。診療予約システムや医事会計システムとも連動しており、診察待ち時間や会計待ち時間が大幅に短縮されます。

#### (3) 在宅医療の取り組みと、地域ネットワーク

私たちは、「治療は患者・家族と医療スタッフとの共同作業である」と考えて、血友病の自己注射治療(1977年～)、家庭透析(1978年～)、在宅酸素療法(1979年～)、CAPD(持続携行式腹膜透析、1982年～)、在宅人工呼吸療法(1986年)などの自己管理治療に取り組んできました。静脈注射や家庭透析を見事に行いすばらしい成績を上げている患者の医療を行う中で、患者・家族の力を知ることができました。

1979年からは、脳卒中後遺症、関節リウマチなどの整形外科的疾患など慢性疾患患者、認知症患者、あるいは癌末期の患者など、通院が困難な患者の自宅に、医師や看護師が訪

問する訪問診療や訪問看護に取り組んできました。

入院していた寝たきり老人が自宅に帰ってから生き生きとした表情を見せるようになり、病状も改善すること、また家族も医療的不安がなくなると安心して介護できるようになることも知りました。

医療法人は、現在、川崎幸クリニックを中心として、川崎市幸区（内に3つの訪問看護ステーション、1つの居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、1つのヘルパーステーション、川崎幸クリニック訪問看護室を設置して地域ケアネットワークを作ってきました。電子カルテシステムにより各事業所でも患者カルテを閲覧できるようにしました。もちろん、訪問看護婦、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、訪問薬剤師などと定期的なカンファランスをもちより良いケアを提供するよう心掛けています。

どのような病気や障害があろうとも望ましい療養生活を送れるような条件作りをすることが、医療の目的であり義務である。重度の状態でも高度医療を受けながら、在宅療養を続けていく人たちは今後ますます増えていくと思います。

現在、約180名の患者に対して訪問診療を行っています。昨年1年間で、78名の患者を自宅あるいは老人福祉施設で看取りました。



#### **(4) 地域の要望に応じた診療体制**

「医療とは、切実な悩みや要望をもつ人に対する、最も身近で直接的で、しかも専門的なサービスを提供する職種である」（杉山孝博）と考えて、川崎幸クリニックでは、地域の要望に応じた診療体制の実現に努力してきました。

- \* 夕方診療（17:30～20:00、月曜日から金曜日）
- \* 土曜日午後午後診療
- \* 日曜診療（内科、小児科）
- \* 年末年始およびゴールデンウィークの診療
- \* 看護外来、栄養相談、心理相談、糖尿病講座などの開催
- \* 訪問リハビリテーション

## (5) 災害への対応

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災では、一般の家屋やビルだけでなく、医療機関の建物にも大きな被害が出ました。そのため災害医療の対応に支障をきたすことになりました。

川崎幸クリニックの設立にあたって、今後は災害に対する医療が重要であると考えて、クリニックの建物を免震構造としました。このため巨大な地震が発生しても、建物や家具備品、人に、被害を防ぐことができます。

さらに、強力な自家発電装置を備えていて、長時間の停電でも、診療を休むことなく続けることができます。東日本大震災が発生したとき、1日数時間の計画停電が行われましたが、川崎幸クリニックでは診療を続けることができました。

### <免震装置（地下）>



## (6) 川崎幸クリニックの主な診療機器



Open MRI



64列MD-CT



マンモグラフィ



EVIS LUCERA上部消化管汎用ビデオスコープ  
OLYMPUS GIF TYPE XP260N



## 【訪問診療】 実際の生活の様子



訪問診療の様子



訪問診療ではご家族も診察  
を受ける事ができます！





## 【訪問リハビリテーション】

実際の生活の様子



マッサージの  
仕方を練習中



訪問リハビリ中  
です。

